

2022年度 ルールブック改修正新旧対照表

旧				新			
P	条項等	内 容		P	章	条項	内 容
【中表紙】							
		2020年度版 ソフトバレーボール 競技規則 ソフトバレーボール小学生競技規則 付 則 審判とその責務および公式ハンドシグナル 付 録 1 公式記録記入法 2 プロトコール 3 ケースブック 4 ソフトバレーボールリーダー 活動実績報告書					2022年度版 ソフトバレーボール 競技規則 ソフトバレーボール小学生競技規則 付 録 1 公式記録記入法 2 プロトコール 3 ケースブック 4 ソフトバレーボールリーダー 活動実績報告書
【一般(共通)】							
15	第1章	1.1.2	競技場の表面から最低7m の高さ、(略)	16	第1章	1.1.2	競技場の表面から最低限7m の高さ、(略)
15			第1図	16			第1図 加筆 ラインの幅および、ショートサービスゾーンとサービスゾーンの範囲
61	付則		審判員の責務および公式ハンドシグナル	37	第7章		審判員の責務および公式ハンドシグナル
61	第1章		審判員とその主な責務	37		25	審判団
61			競技は、競技参加者の相互審判を基本として、主審1人、副審1人、記録員1人、線審2人、点示員2人の計7人で運営する。(第1図にその配置を示す。)	37			競技は、競技参加者の相互審判を基本として、主審1人、副審1人、記録員1人、線審2人、点示員2人の計7人で運営する。(第9図にその配置を示す。)
61			第1図	37			第9図
61		1	主 審	37		26	主 審
61		(1)	権 限	37		26.1	権 限
61		1)	主審は、ネットの一端に置かれた審判台の上に立ち、両方のコートがはっきり見えるような高さに位置し、その任務を遂行する。	37		26.1.1	主審は、ネットの一端に置かれた審判台の上に立ち、両方のコートがはっきり見えるような高さに位置し、その任務を遂行する。
61		2)	主審は、開始から終了まで試合を主宰し、すべての役員と両チームのメンバーに対して最高の権限を持つ。試合中、主審の決定は最終である。	37		26.1.2	主審は、開始から終了まで試合を主宰し、すべての役員と両チームのメンバーに対して最高の権限を持つ。試合中、主審の決定は最終である。
61		3)	主審は、競技規則に明示されていないすべての問題を決定する権限を持ち、自分が下した判定に関しいかなる論争を許してはならない。	37		26.1.3	主審は、競技規則に明示されていないすべての問題を決定する権限を持ち、自分が下した判定に関しいかなる論争を許してはならない。
61		4)	主審は、試合開始前あるいは試合中に、競技場やその状況が競技に適しているかどうかを決定する責任をもつ。	38		26.1.4	主審は、試合開始前あるいは試合中に、競技場やその状況が競技に適しているかどうかを決定する責任をもつ。
62		(2)	責 務	38		26.2	責 務
62		1)	主審は、試合開始前	38		26.2.1	主審は、試合開始前

2022年度 ルールブック改修正新旧対照表

旧			新			
P	条項等	内 容	P	章	条項	内 容
62	①	競技場、ボールや他の用具の状態を点検する。	38		26.2.1.1	競技場、ボールや他の用具の状態を点検する。
62	②	両チームキャプテンを立ち合わせてトスを行う。	38		26.2.1.2	両チームキャプテンを立ち合わせてトスを行う。
62	③	チームの公式ウォームアップを統御する。	38		26.2.1.3	チームの公式ウォームアップを統御する。
62	2)	主審は、試合中、次の権限を持つ。	38		26.2.2	主審は、試合中、次の権限を持つ。
62	①	不法な行為(非スポーツマン的行為)に対し注意を与える。注意されても繰り返して行う場合は反則となることもある。	38		26.2.2.1	不法な行為(非スポーツマン的行為)に対し注意を与える。注意されても繰り返して行う場合は反則となることもある。
62	②	次のことを吹笛し判定する。	38		26.2.2.2	次のことを吹笛し判定する。
62	(a)	サーバーおよびサービングチームのポジションに関する反則。	38		(a)	サーバーおよびサービングチームのポジションに関する反則。
62	(b)	ボールをプレーするときの反則。	38		(b)	ボールをプレーするときの反則。
62	(c)	ネット上方、およびその上部に関する反則。	38		(c)	ネット上方、およびその上部に関する反則。
62	(d)	ゲーム中、緊急にラリーを中断するとき。	38		(d)	ゲーム中、緊急にラリーを中断するとき。
62	2	副 審	38		27	副 審
62	(1)	権 限	38		27.1	権 限
62	1)	副審は、主審の反対側で、コート外側の支柱付近に立って任務を遂行する。	38		27.1.1	副審は、主審の反対側で、コート外側の支柱付近に立って任務を遂行する。
62	2)	副審は、チームベンチの競技参加者を監視し、その不法行為を主審に通告する。	38		27.1.2	副審は、チームベンチの競技参加者を監視し、その不法行為を主審に通告する。
62	3)	タイムアウトや選手交代の要求を許可し、その時間や回数をコントロールし、主審と当該チーム監督に2回目のタイムアウトおよび3回目、4回目の選手交代を通知する。	38		27.1.3	タイムアウトや選手交代の要求を許可し、その時間や回数をコントロールし、主審と当該チーム監督に2回目のタイムアウトおよび3回目、4回目の選手交代を通知する。
62	4)	主審から見えない位置で生じた副審の責務以外の反則を確認したときは、ハンドシグナルのみで主審に合図することができる。しかし、主審に判定を強要することはできない。	38		27.1.4	主審から見えない位置で生じた副審の責務以外の反則を確認したときは、ハンドシグナルのみで主審に合図することができる。しかし、主審に判定を強要することはできない。
63	(2)	責 務	39		27.2	責 務
63	1)	各セットの開始時に、コート内の選手がラインアップシートどおりか、チェックする。	39		27.2.1	各セットの開始時に、コート内の選手がラインアップシートどおりか、チェックする。
63	2)	試合中、副審は、次の点に関して判定し、吹笛をして合図する。	39		27.2.2	試合中、副審は、次の点に関して判定し、吹笛をして合図する。
63	①	サービス時の、レシービングチームのポジションに関する反則。	39		27.2.2.1	サービス時の、レシービングチームのポジションに関する反則。

2022年度 ルールブック改修正新旧対照表

旧			新			
P	条項等	内 容	P	章	条項	内 容
63	②	選手が、 <u>ネットあるいは副審側の</u> アンテナに触れた場合の反則。	39		<u>27.2.2.2</u>	選手が、ネット <u>やネットの幅の支柱</u> あるいは副審側のアンテナに触れた場合の反則。
63	③	相手コートへ侵入したり、ネット下方の空間で相手のプレーを妨害したとき。	39		<u>27.2.2.3</u>	相手コートへ侵入したり、ネット下方の空間で相手のプレーを妨害したとき。
63	④	ボールが、副審側のアンテナに触れるか、その外側を通過したとき。	39		<u>27.2.2.4</u>	ボールが、副審側のアンテナに触れるか、その外側を通過したとき。
63	⑤	ボールが、主審から見えない位置で外部の物体や床に触れたとき。	39		<u>27.2.2.5</u>	ボールが、主審から見えない位置で外部の物体や床に触れたとき。
63	⑥	ゲーム中、緊急にラリーを中断するとき。	39		<u>27.2.2.6</u>	ゲーム中、緊急にラリーを中断するとき。
63	3	記録員	39		<u>28</u>	記録員
63		記録員は、主審とは反対側の記録席に座り、次の任務を果たす。	39			記録員は、主審とは反対側の記録席に座り、次の任務を果たす。
63	(1)	試合およびセットの開始前	39		<u>28.1</u>	試合およびセットの開始前
63		規定された手続きに従い、その試合やチームに関する必要事項を公式記録用紙に記入し、監督またはチームキャプテンの署名を採録する。	39			規定された手続きに従い、その試合やチームに関する必要事項を公式記録用紙に記入し、監督またはチームキャプテンの署名を採録する。
63	(2)	試合中は	39		<u>28.2</u>	試合中は、
63	1	公式記録法に従って両チームの得点を記録し、点示板が常に正しい得点を示しているかどうかを確認する。	39		<u>28.2.1</u>	公式記録法に従って両チームの得点を記録し、点示板が常に正しい得点を示しているかどうかを確認する。
63	2	両チームのサービス順を統御し、誤りがあればサービス打たれた直後、副審に合図する。	39		<u>28.2.2</u>	両チームのサービス順を統御し、誤りがあればサービス打たれた直後、副審に合図する。
63	3	両チームのタイムアウトおよび選手交代を記録し、その回数を副審に通告する。規定回数を越えた要求や、不当な要求は主審と副審に通告する。	39		<u>28.2.3</u>	両チームのタイムアウトおよび選手交代を記録し、その回数を副審に通告する。規定回数を越えた要求や、不当な要求は主審と副審に通告する。
63	4	各セットが終了したとき、および第3セットで8点に達したとき、主審と副審に通告する。	39		<u>28.2.4</u>	各セットが終了したとき、および第3セットで8点に達したとき、主審と副審に通告する。
63	(3)	試合終了時	40		<u>28.3</u>	試合終了時
64		最終結果を記録し、自分のサインをした後、両チームキャプテン、(線審)、副審、主審、の順で署名を採録する。(線審については記録員が事前に記入してもよい。)	40			最終結果を記録し、自分のサインをした後、両チームキャプテン、(線審)、副審、主審、の順で署名を採録する。(線審については記録員が事前に記入してもよい。)
64	4	線 審	40		<u>29</u>	線 審
64	(1)	2人の線審は、ネットに向かって左側のコートの両端から、0.5～1m離れた位置に立ち、旗を使ってその任務を遂行する。	40		<u>29.1</u>	2人の線審は、ネットに向かって左側のコートの両端から、0.5～1m離れた位置に立ち、旗を使ってその任務を遂行する。
64	(2)	線審は、担当するコーナーでエンドラインとサイドラインに関する判定(サーバーのフットフォルトや、ボールのアウト、イン等)をし、合図する。	40		<u>29.2</u>	線審は、担当するコーナーでエンドラインとサイドラインに関する判定(サーバーのフットフォルトや、ボールのアウト、イン等)をし、合図する。

2022年度 ルールブック改修正新旧対照表

旧			新			
P	条項等	内 容	P	章	条項	内 容
64	(3)	線審は、ボールがアンテナに触れたり、その想像延長線上を通過したり、その外側を通過したとき、合図する。	40		29.3	線審は、ボールがアンテナに触れたり、その想像延長線上を通過したり、その外側を通過したとき、合図する。
64	5	点示員	40		30	点示員
64	(1)	点示員は、点示板の左右に1人ずつ座り、得点経過を表示する。	40		30.1	点示員は、点示板の左右に1人ずつ座り、得点経過を表示する。
64	(2)	得点の表示は、常に公式記録用紙に従わなければならない。	40		30.2	得点の表示は、常に公式記録用紙に従わなければならない。
64	(3)	電光掲示板など特別な点示器具を使用する場合は、点示員の数を1人にしてもよい。	40		30.3	電光掲示板など特別な点示器具を使用する場合は、点示員の数を1人にしてもよい。
65	第2章 1	主審と副審のハンドシグナル(第2図)	40		31	主審と副審の公式ハンドシグナル(第10図)
65	(1)	主審と副審のハンドシグナル	41		31.1	主審と副審のハンドシグナル
65		主審と副審は、公式ハンドシグナルを用いて、吹笛をした理由(反則の種類、または許可した試合中断の目的)を示さなければならない。 公式ハンドシグナルは、しばらくの間、示し続ける。もしそのハンドシグナルを片方の手で示す場合は、反則や要求のあったチーム側の手を使わなければならない。	41			主審と副審は、公式ハンドシグナルを用いて、吹笛をした理由(反則の種類、または許可した試合中断の目的)を示さなければならない。 公式ハンドシグナルは、しばらくの間、示し続ける。もしそのハンドシグナルを片方の手で示す場合は、反則や要求のあったチーム側の手を使わなければならない。
65	(2)	主審が吹笛した場合のハンドシグナル	41		31.2	主審が吹笛した場合のハンドシグナル
65	1)	次にサービスを行う(得点を得た)チームを示す。	41		31.2.1	次にサービスを行う(得点を得た)チームを示す。
65	2)	反則の種類を示す。	41		31.2.2	反則の種類を示す。
65	3)	反則した選手を示す。(必要に応じて)	41		31.2.3	反則した選手を示す。(必要に応じて)
65	(3)	副審が吹笛した場合のハンドシグナル	41		31.3	副審が吹笛した場合のハンドシグナル
65	1)	反則の種類を示す。	41		31.3.1	反則の種類を示す。
65	2)	反則した選手を示す。	41		31.3.2	反則した選手を示す。
65	3)	主審がサービスチームを示した後にサービスチームを示す。 (この場合主審は、次にサービスを行うチームのみを示す。)	41		31.3.3	主審がサービスチームを示した後にサービスチームを示す。 (この場合主審は、次にサービスを行うチームのみを示す。)
65	2	線審のフラッグシグナル(第3図)	41		32	線審のフラッグシグナル(第11図)
65		線審は公式フラッグシグナルを使って反則判定結果を示し、それをしばらくの間、示し続けなければならない。	41			線審は公式フラッグシグナルを使って反則判定結果を示し、それをしばらくの間、示し続けなければならない。
66		第2図 主審と副審の公式ハンドシグナル	42			主審と副審の公式ハンドシグナル(第10図)
66		① 一 般 17.4.2 小学生 16.4.2	42			① 17.4.2

2022年度 ルールブック改修正新旧対照表

旧			新			
P	条項等	内 容	P	章	条項	内 容
66		② <u>一 般</u> 15 <u>小学生</u> 14	42			② <u>31.2.1</u> 、 <u>31.3.3</u>
66		③ <u>一 般</u> 21.1 <u>小学生</u> 20.1	42			③ 21.1
66		④ <u>一 般</u> 21.2、22.13 <u>小学生</u> 20.2、21.13	42			④ 21.2、22.13、 <u>26.2.2.2(b)</u> 、 <u>27.2.2.4</u> 、 <u>27.2.2.5</u>
67		⑤ <u>一 般</u> 18.7、22.14 <u>小学生</u> 17.7、21.14	43			⑤ <u>11.5</u> 、18.7、22.14、 <u>26.2.2.2(d)</u> 、 <u>27.2.2.6</u>
67		⑥ <u>一 般</u> 18.1、22.7 <u>小学生</u> 17.1、21.7	43			⑥ 18.1、22.7、 <u>26.2.2.2(b)</u>
67		⑦ <u>一 般</u> 20.5、22.11 <u>小学生</u> 19.5、21.11	43			⑦ 20.5、22.11、 <u>26.2.2.2(c)</u>
67		⑧ <u>一 般</u> 22.4.2 <u>小学生</u> 22.4.2	43			⑧ 22.4.2、 <u>26.2.2.2(c)</u>
68		⑨ <u>一 般</u> 22.4.2、22.4.3 <u>小学生</u> 21.4.2、22.4.3	44			⑨ 22.4.2、22.4.3、 <u>26.2.2.2(b)</u>
68		⑩ <u>一 般</u> 22.10 <u>小学生</u> 21.10	44			⑩ 22.10、 <u>26.6.2.2(c)</u> 、 <u>27.2.2.2</u>
68		⑪	44			⑪ <u>26.2.2.2(b)</u>
68		⑫ <u>一 般</u> 18.6、22.8 <u>小学生</u> 17.6、21.8	44			⑫ 18.6、22.8、 <u>26.2.2.2(b)</u>
69		⑬ <u>一 般</u> 18.2、18.3、22.9 <u>小学生</u> 17.2、17.3、21.9	45			⑬ 18.2、18.3、22.9、 <u>26.2.2.2(b)</u>
69		⑭ <u>一 般</u> 17.1 <u>小学生</u> 16.1	45			⑭ 17.1、 <u>26.2.2.2(b)</u>
69		⑮ <u>一 般</u> 17.4.5、7.4.6、22.1 <u>小学生</u> 16.4.4、16.4.5、21.1	45			⑮ 17.4.5、17.4.6、22.1、 <u>26.2.2.2(b)</u>
69		⑯ <u>一 般</u> 22.12 <u>小学生</u> 21.12	45			⑯ 22.12、 <u>26.2.2.2(b)</u> 、 <u>27.2.2.3</u>
70		⑰ <u>一 般</u> 19.4、19.5、22.5 <u>小学生</u> 18.4、21.5	46			⑰ 19.4、19.5、22.5、 <u>26.2.2.2(b)</u>
70		⑱ <u>一 般</u> 20.6、20.7、22.6 <u>小学生</u> 19.5、21.6	46			⑱ 20.6、20.7、22.6、 <u>26.2.2.2(b)</u> 、(c)

2022年度 ルールブック改修正新旧対照表

旧			新			
P	条項等	内 容	P	章	条項	内 容
70		⑱ 一 般 10.1.2、10.2、17.3、22.2、22.3 <u>小学生 16.3、21.2、21.3</u>	46			⑱ 10.1.2、10.2、17.3、22.2、22.3、 <u>26.2.2(a)、27.2.1</u>
70		⑳ 一 般 12 <u>小学生 11</u>	46			⑳ 12
71		㉑ 一 般 11.2 <u>小学生 10.2</u>	47			㉑ 11.2、 <u>27.1.3</u>
71		㉒ 一 般 11.1 <u>小学生 10.1</u>	47			㉒ 11.1、 <u>27.1.3</u>
71		㉓ 一 般 13、14、16 <u>小学生 12、13、15</u>	47			㉓ 13、14、16
71		㉔ 24.1	47			㉔ 24.1、 <u>26.2.1</u>
72		㉕ 24.2	48			㉕ 24.2、 <u>26.2.1</u>
72		㉖ 24.3	48			㉖ 24.3、 <u>26.2.1</u>
72		㉗ 24.4 レッドカード、イエローカードを別々に示す。	48			㉗ 24.4、 <u>26.2.1</u> レッドカードとイエローカードを別々に示す。
73		第3 図 線審のフラッグシグナル	49			第11 図 線審のフラッグシグナル
73		① 一 般 21.1 <u>小学生 20.1</u>	49			① 21.1、 <u>29.2</u>
73		② 一 般 21.2.1、22.13.3 <u>小学生20.2.1、21.13.3</u>	49			② 21.2.1、22.13.3、 <u>29.2</u>
73		③	49			③ <u>29.2</u>
74		④ 一 般 17.4.5、17.4.6、21.2.2、21.2.3、22.1、22.13.1 <u>小学生 16.4.4、16.4.5、20.2.2、20.2.3、21.1、21.13.1、21.13.2</u>	50			④ 17.4.5、17.4.6、21.2.2、21.2.3、22.1、22.13.1、22.13.2、 <u>29.2、29.3</u>
【小学生】						
45	第1章	施設と用具	55		1	施設と用具
46	2.1	ネットは、幅80 cm のソフトバレーボール用ネットを用い、ネットの高さは、5、6年生2m、4年生以下は1.80mとし、コート中央で測定する。ただし規定の高さにならない場合はマイナス2 cm まで認める。	55		1.1	ネットは、幅80 cm のソフトバレーボール用ネットを用い、ネットの高さは、5、6年生2m、4年生以下は1.80mとし、コート中央で測定する。ただし規定の高さにならない場合はマイナス2 cm まで認める。

2022年度 ルールブック改修正新旧対照表

旧			新			
P	条項等	内 容	P	章	条項	内 容
46	2.2	ネットの高さは、児童の体力や運動技能等に応じ、前項規定の高さにこだわることなく設定してもよい。	55		1.2	ネットの高さは、児童の体力や運動技能等に応じ、前項規定の高さにこだわることなく設定してもよい。
47	3.1	ボールは、ビニール製で、第1表のような規格をもつ公益財団法人日本バレーボール協会検定のソフトバレーボールを使用する。 第1表	55		1.3	ボールは、ビニール製で、第1表のような規格をもつ公益財団法人日本バレーボール協会検定のソフトバレーボールを使用する。 第1表
66	3.2	小学校における体育科教材用ボールとして、児童の体力や運動技能等に応じ、第1表のほか20g・30gの使用ができる。	55		1.4	小学校における体育科教材用ボールとして、児童の体力や運動技能等に応じ、第1表のほか20g・30gが使用できる。
50	第3章 9	チームのラインアップシート	55		2	チームのラインアップシート
50	9.1	各セットの開始前に、監督またはチームキャプテンは、サービス順とスターティングラインアップを記入したラインアップシートを、副審もしくは記録員に提出しなければならない。 第1図	55		2.1	各セットの開始前に、監督またはチームキャプテンは、サービス順とスターティングラインアップを記入したラインアップシートを、副審もしくは記録員に提出しなければならない。 第1図
50	9.2	サービス順は、選手の位置とは関係なく決めることができる。ただし、その順序は、そのセットを通して変更することはできない。	56		2.2	サービス順は、選手の位置とは関係なく決めることができる。ただし、その順序は、そのセットを通して変更することはできない。
51	10.2.4	交代選手のサービス順は、被交代選手の順位とする。	56		2.3	交代選手のサービス順は、被交代選手の順位とする。
			56		3	試合の進行
			56		3.1	試合は、サービス権を得たチームの最初のサーバーによって開始される。
55	第5章 16.4.5	小学校4年生以下の選手は、ショートサービスラインからサービスをすることができる。ボールを打った瞬間、あるいはジャンプサービスをするために踏み切ったとき、ショートサービスラインやゾーンの外側に触れてはならない。	56		3.2	小学校4年生以下の選手は、ショートサービスラインからサービスをすることができる。ボールを打った瞬間、あるいはジャンプサービスをするために踏み切ったとき、ショートサービスラインやゾーンの外側に触れてはならない。
55	16.4.1	サービスは1回とする。 なお、サービスストしたボールがサーバーの身体に触れないで床に落ちた場合は、1回だけサービスをやり直すことができる。	56		3.3	サービスストしたボールがサーバーの身体に触れないで床に落ちた場合は、1回だけサービスをやり直すことができる。
54	16.3.1	ラリーに勝ったチームがサービスチームであれば、前にサービスした同じ選手がサービスを行う。	56		3.4	ラリーに勝ったチームがサービスチームであれば、前にサービスした同じ選手がサービスを行う。
55	16.3.2	サービスをレシーブしたチームがラリーに勝った場合は、サービス権を得て次の順位の者がサービスを行う。	56		3.5	サービスをレシーブしたチームがラリーに勝った場合は、サービス権を得て次の順位の者がサービスを行う。
58	21.3	アウトオブポジション サーバーにより、ボールが打たれた瞬間に、サーバーを除く両チームの選手は、それぞれのコート内にいなければならない。	56		3.6	サーバーにより、ボールが打たれた瞬間に、サーバーを除く両チームの選手は、それぞれのコート内にいなければならない。
54	16.3	サービス順 サービスは、ラインアップシートに記入された順に従って行われる。もし、サービス順通りに行われなかったときは、サービス順の誤りの反則となり、反則中に得た点は取り消され、相手チームにサービス権と1点を与えた後、正しいサービス順に戻す。	56		3.7	サービスは、ラインアップシートに記入された順に従って行われる。もし、サービス順通りに行われなかったときは、サービス順の誤りの反則となり、反則中に得た点は取り消され、相手チームにサービス権と1点を与えた後、正しいサービス順に戻す。
48	第2章 6.2.1	監督は、試合中、チームベンチの記録席に最も近い位置に座っていなければならないが、競技中断の間は立ち上がって指示をしても良い。	56		3.8	監督は、試合中、チームベンチの記録席に最も近い位置に座っていなければならないが、競技中断の間は立ち上がって指示をしても良い。